

広島派遣研修を振り返って

能生中学校 2年 齋藤 優愛

私はこの広島派遣をとおして、広島についてたくさん知り、学ぶことができました。平和記念公園では全校で折った千羽鶴を献納し、原爆ドームや平和記念資料館などの見学も行い、8月6日には平和記念式典への参列も行いました。式典で平和の誓いを聞き、見学しただけでは感じられない被爆の辛さを実感することができました。また実際に原爆ドームの前に立ってみると、戦争がどれほどのものを奪ったのかが、言葉にはできないほど伝わってきました。

資料館では、原爆が投下された直後の広島の写真や、当時使われていたお弁当箱や衣類、当時書かれた手紙など、被爆に関わる品々が展示されていました。その一つ一つを見ることで、これまで教科書や資料を見ただけでは感じきれなかった戦争の悲惨さが強く伝わってきました。戦争は一部の人だけでなく、子どもから大人まで、普通に暮らしていた多くの人たちを突然巻き込んでしまうことを改めて知りました。

そして、被爆体験講話では、佐伯さんから、被爆したことで社会で差別を受けることがあったという話を聞きました。被爆した人は体や心に大きな傷を負っただけでなく、周りの無理解や偏見によって、普通の生活では考えられないような苦しみも味わったのだと教えられました。知らないことを理由に恐れたり、偏見をもつのではなく、事実を正しく知ることがとても大切だと思いました。実際に佐伯さんが聞いた話や、体験されたことを聞き、知らないままにし

ておくことや、何となく怖がるのが、さらに人を傷つけてしまうことにつながってしまうのだと学びました。ただ、「戦争や差別は良くない」と思うだけでなく、なぜそのようなことが起きてしまったのか、どうすれば同じことを繰り返さずに済むのかを考え続けることが、自分にもできる一歩だと思います。被爆についてのお話を聞いたことで、平和は当たり前にあるものではないことを知りました。私たちが正しい知識を持ち、それを周りにも伝えていくことが、未来の平和につながると思います。

今回の広島派遣で体験したこと、感じたことをこれからも忘れず、私ができることを自分なりに考えて行動していきたいです。そして、今回の派遣で学んだ「平和は当たり前にあるものではない」ということを、まずは身近な人たちに伝え、知ってもらいたいと思いました。私自身もそのことを忘れずに、自分にできることから始めていき、これからの日々にかかしていきたいと思います。
